

SABO NEWS LETTER

1 頁

第11号 【発行日】: 1999年 3月17日 【発行】 (社) 全国治水砂防協会

拝啓 市町村長様

日一日と春めいてきた今日この頃です。皆様にはお褒りなく御活躍の事と拝察いたします。

さて、さる3月4日平成11年度の土砂災害防止月間実行委員会が開催されました。早いもので今年6月の月間の内容の検討が終了いたしました。今年度は昨年度の災害実績から災害弱者対策をハード面ソフト面両面合わせて強かに実行すること、並に住民と行政の情報共有化を図るためのシステム（土砂災害110番の設置）を通じて、双方の情報交換が出来るようにするべく力を尽くしてまいります。

またシンポジウムでは砂防事業を強かに進めていく「女性」による「女性の砂防（仮題）」を実行可能な準備が進められております。乞御期待です！

また雪のある地方ではそろそろ雪どきかはいります。地味な土砂災害に充分注意して安全な地域づくりを実行して下さい。

平成11年度の砂防部の意向がわかる協会主催講習会のテキストに書かれています。御一読いただきますと幸いです。今回はこの辺で失礼です。
堀谷 浩

MENU

- 1 . 建設省砂防部長より 1
- 2 . 平成 1 1 年度 土砂災害防止月間実行
委員会 開催される 3
- 3 . 青森県十和田湖町の 一般国道 1 0 2 号
土砂崩落について 4
- 4 . イランは, 土砂災害の頻発地域! 5
- 5 . 「砂防および地すべり防止講習会」開催
される 6

当面の行事予定

- 3 / 1 8 (木) ・土砂災害防止に関する絵画・ポスター
作文中央審査会
- 3 / 1 9 - 2 4 ・ネパール治水砂防技術センター 治水
砂防シンポジウム
- 3 / 2 5 (木) ・砂防・治山連絡調整会議
・全国地すべりがけ崩れ対策協議会 第
3 回理事会

「SABO NEWS LETTER」へのご質問, ご意見, ご感想, 各記事の詳細内容などについては FAX で以下へお問い合わせください。

問い合わせ先: 社団法人 全国治水砂防協会 事業本部 宮本 登, 藤川 泰弘
住 所 : 〒 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 砂防会館内
電話番号 : 03-3261-8386
FAX 番号 : 03-3261-5449
E-mail : kyokai@sabo.or.jp

平成11年度土砂災害防止月間実行委員会開催される

建設省・都道府県等は、土砂災害防止に対する国民の理解と関心を深めるとともに、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制整備の促進等の運動を強力に推進し、土砂災害による人命、財産の被害の防止に資することを目的に、昭和58年度より毎年6月を土砂災害防止月間として様々な行事等を全国的に実施しています。

去る3月4日、平成11年度土砂災害防止月間に関わる行事等の実施内容に関して、必要な事項を決定するため、土砂災害防止月間実行委員会（委員長：池谷建設省砂防部長）が開催されました。

平成11年度の主な取り組み内容は以下のとおりです。

1. 平成11年度土砂災害防止月間の重点事項

(1) 災害弱者への対応強化

災害弱者関連施設に係る土砂災害緊急点検調査（平成10年9月）等により土砂災害のおそれがあると判明した約1万9千施設の施設管理者に対して土砂災害危険区域図等を配布するとともに、説明会等を実施します。

(2) 情報の共有化の推進

土砂災害危険箇所状況について、地域住民並びに砂防ボランティア等の協力を得た点検の実施や土砂災害110番を地域住民に周知することにより、地域住民と行政の双方向のコミュニケーションをはかります。

(3) 危険箇所の周知徹底

近年の土砂災害発生箇所等の周辺住民に対して、ダイレクトメールによる危険箇所の周知を実施します。

(4) 警戒避難基準に関する講習会の実施

警戒避難基準に基づく土砂災害に関する警報の発令と避難の指示を迅速かつ適切に実施していくため、市町村の防災担当者を対象とした講習会を実施します。

2. 土砂災害防止推進の集い（全国大会）

「女性と砂防（仮題）」をテーマとして、6月3日に富山県富山市、6月4日に富山県立山町において実施します。なお、実施状況を衛星回線を利用して各所（地方建設局等）に配信し、関係者に広く情報を提供します。

問い合わせ先：「平成11年度土砂災害防止月間」実行委員会事務局
建設省河川局砂防部砂防課企画係
電話03-5251-1886

青森県十和田湖町の一般国道102号土砂崩落について

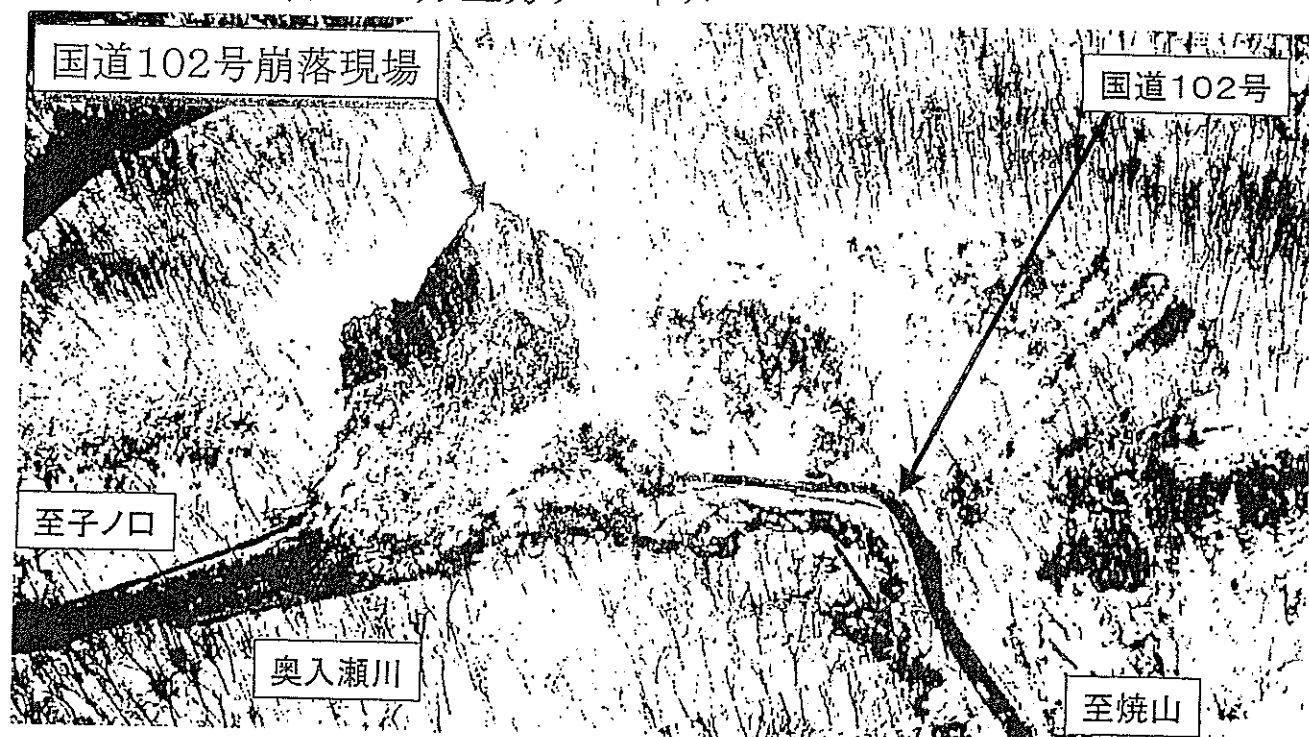
平成11年3月10日(水)午前0時頃、青森県十和田湖町の奥入瀬溪流の国道102号の斜面が、幅約200m、長さ約150mの広範囲に渡って崩落し、国道を越え二級河川奥入瀬川を埋塞した。

未明の崩落であったため、幸いにも人的な被害はなかったものの、一歩誤れば大災害につながる恐れがあった。

建設省はこの一報を得るとともに、即座に土木研究所綱木地すべり研究室長と防災・海岸課西査定官を現地に派遣し、現地の情報収集とともに、現地調査を実施し、応急対策及び監視体制を指示した。

○地すべりの規模

幅約200m、長さ150m、想定最大深度 約40m
堆積土量 約10万立方メートル



イランは、土砂災害の頻発地域！

● 傾斜地保全課 課長補佐 栗原淳一 ●

皆様は、中東の国イランのイメージをどのようにお持ちでしょうか。

私は、2月27日から3月9日まで京都大学の小橋名誉教授とイランの土砂災害の現況と対策について調査を行ってきました。

イランといえば広大な砂漠と石油の国という中近東の一般的なイメージしか私はありませんでしたが、実際には日本よりも高い山脈が連なる山国です。首都テヘランは、標高 1,200m ほどの高地にありますし、山岳地帯は冬はかなりの雪が降りスキー場なども結構あるようです。

イラン国の平均雨量は約 250mm と我が国よりもかなり低く、夏は乾期、冬は雨期で日本とは異なる雨の降り方になります。一方、人口の増加に伴い羊の放牧による草地の裸地化が進み、近年斜面の侵食が激しくなっています。このため、最近では、わずかな雨でも土砂災害が発生しやすくなっており、各地で土石流や地すべりが頻発し、多くの方が亡くなっています。また、世界で規模が最も大きい地すべり地（長さ 16km、巾 5km）は、イランの中西部にあります。

土砂災害などの地方の整備を担当しているのは、建設推進省で、高さが低い砂防ダムを各地に整備していますが、日本の土石流対策のような砂防ダムはありません。但し、緑化には非常に熱心で、各地の斜面で緑化工事を行っていました。一方、地すべり対策も含めまだ十分ではなく、イランと日本の砂防の交流により今後イランの土砂災害対策が進むことを祈っております。

● 今後の海外派遣予定 ●

○ニカラグア共和国

建設省は、昨年10月下旬から11月上旬にかけて大規模なハリケーン災害に見舞われたニカラグア共和国に対し、同国への今後の技術協力ニーズの調査を行う調査団（渡辺正幸団長＜JICA国際協力専門員＞他5名）を3月17日（一部団員は3月10日から）から約3週間派遣します。砂防関係者としては、反町雄二氏（建設省土木研究所砂防部砂防技術総括研究官）が団員として、3月17日より3月31日の期間で派遣されます。

砂防および地すべり防止講習会開催される

3月11日12日の両日、砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにて(社)全国治水砂防協会主催の「第39回砂防および地すべり防止講習会」が開催され、全国各地から約550名の方々が参加されました。

当日は来賓として建設省佐藤技監、池谷砂防部長、小林砂防課長、高梨傾斜地保全課長、中野火山・土石流対策官が出席され、当協会大久保常務理事の主催者挨拶の後、佐藤技監より挨拶をいただきました。その後赤木正雄顕彰事業にもとづく赤木各賞の授与式が行われ、赤木賞の小橋澄治 京都大学名誉教授をはじめご功績のあった方々に大久保常務理事から各賞が伝達されました。

なお各賞の受賞者ならびに略歴、功績は当協会機関誌「砂防と治水127号(4月号)」に掲載致します。

その後、山岳写真家 白旗史朗氏から「日本の山・世界の自然」と題した特別講演をいただきました。白旗氏のご自身で登られた世界の山々での厳しい自然の話や体験談を、また約100枚にもものぼる素晴らしい写真をスライドでご紹介頂き、一時間半に渡る講演をいただきました。一般講演では池谷砂防部長による「今砂防は何をなすべきか」をはじめ、他分野の方々のご講演もいただきました。

今後ともさらに多くの方々にご参加頂けるよう充実した内容を目指しておりますので皆様方のいろいろなご意見、ご示唆等をお待ちしております。

[受 賞 者 一 覧]

[赤木賞] 砂防に関する行政・学術研究に貢献し、砂防事業の発展に多大の貢献のあった者に贈られる賞。

小 橋 澄 治 氏 (京都大学名誉教授)

[赤木顕功賞] 砂防行政の発展及び砂防技術の向上に多大の功績があった者に贈られる賞。

榎 本 政 雄 氏
(元 建設省関東地方建設局 日光砂防工事事務所長)

藤 原 敏 朗 氏
(元 滋賀県土木部砂防課長)

高 橋 杰 氏
(元 建設省北陸地方建設局 阿賀野川工事事務所長)

[赤木功績賞] 砂防事業の発展に多大の功績があった者に贈られる賞。

廣 瀬 清 臣 氏
(元 建設省北陸地方建設局 金沢工事事務所白峰砂防出張所長)

丸 山 敬 二 氏
(元 建設省関東地方建設局 渡瀬川工事事務所副所長)

[赤木功労賞] 多年にわたり砂防関係事業の推進を陰から支えた者若しくは現に支えている者に贈られる賞。

岡 田 千 枝 子 氏
(建設省北陸地方建設局 松本砂防工事事務所)